

グローバル・スコープ

ウクライナに続いてガザでの戦争だ。ハマスの非道なテロの報復としてイスラエルのガザへの叩責(かしやく)なき攻撃は民間人の犠牲者が数多く、これは憎しみの悪循環を生むことになるのだろう。ハマスの戦闘部隊は地下に潜っているのだろうし、ガザの戦争は延々と続く。その間、世界はいくつもの好ましくない事態に備えなければならぬ。

中東での紛争は拡大していく。直近まで米国が主導したアブラハム合意に従ってイスラエルとアラブ諸国の関係正常化が進んだが、

ガザ戦争で世界に分断リスク



サウジアラビアとの正常化を前に頓挫したと考えるを得ない。アラブ諸国とイスラエ

ル、イランとイスラエルの関係も緊張の度合いを強めるのだろう。中東全域でイスラエルや欧米の拠点を狙ったイスラム過激派のテロが横行していくのかもしれない。このようなリスクは中東地域に限らない。米国や欧州においてもテロ攻撃が再発していく可能性は高い。

ガザの戦争と中東情勢の流動化はウクライナの戦争にも大きな影響を与えることになるだろう。この戦争が継続する限り、ウクライナに対する世界の関心

ガザ北部に侵攻するイスラエル軍(AFP時事)

G7先導、停戦へ外交努力を

が低下することになるだろうし、イスラエルによる対ハマスの攻撃は自衛戦争であるにしても、ガザにおける著しい人道上の困難を生んでいる状況を見れば、とりわけグローバルサウス諸国から、イスラエルやこれを止められない西側諸国への非難も高まってゆくのだろう。

石油価格の高騰にも拍車がかかるだろう。すでに石油価格は上がり出しており、ウクライナ戦争とガザ戦争の結果、石油供給が滞り、1970年代に経験した石油危機の再来となる危険性も存在する。

そして、徐々に進みつつある世界の分断が明確な形になるのかもしれない。ガザの戦争

について、ロシアおよび中国は人道問題を掲げパレスチナ側に立ち、イランやアラブ諸国との連携を強化する方向にかじを切っている。

一刻も早く戦争を止めなければならぬ。ウクライナの戦争においてはロシアという核大国の意思を変えさせることは現実的ではないかもしれないが、イスラエルは敵国ではなく、米国の同盟国である。ここは先進7カ国(G7)が先導し、国際社会と一丸となってガザの停戦に向けて最大限の外交努力を傾ける時に来ているのではないか。

(第2・4水曜日に掲載)



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問

田中均